

# 造影MRI検査にあたっての説明書

## 1 造影剤について

今回あなたが受けられる検査は「造影剤」という薬の注射を行います。造影剤を用いることにより、病気の状態をより正確に知ることが可能となり、治療に役立てることが出来ます。

以前造影剤で副作用のあった方、気管支喘息、重篤な肝障害、腎障害のある方、透析中の方には原則として造影剤は使用できません。

造影剤は主に尿で排泄されますので、検査後水分を多めに摂り排尿を心掛けてください。

妊娠中の造影剤を用いた検査は原則として行いません。授乳中の場合は48時間の授乳をお控え下さい。

造影剤を使用する場合は、造影検査前3カ月以内の腎機能についての血液検査が必要です。

検査を受けるにあたり、説明を受け納得されましたら同意書にご署名をしていただきます。

肝臓造影剤プリモビストで検査を受けられる方

肝臓造影剤プリモビストは通常の造影剤と比べて、血管及び細胞間隙に分布するだけでなく肝細胞にも取り込まれます。肝臓の診断には大変有効な薬剤です。

肝臓造影剤プリモビストは投与終了後、通常4日目までに57%が尿中に、39%が便中に排泄されます。

## 2 副作用

以下の副作用が起こることがあります。アレルギー体質の方や喘息の方は確率が更に高くなります。

軽い副作用(1%~3%)                      肝臓造影剤(0.1%~3%)

発疹、かゆみ、頭痛、めまい、血圧上昇、悪心、嘔吐、下痢、熱感、紅潮など。

重い副作用(0.01%~0.04%)              肝臓造影剤(0.001%~0.002%)

呼吸困難、意識消失、血圧低下、けいれん発作、腎性全身性線維症など。

死亡(0.001%~0.0001%)                肝臓造影剤(0.00005%~0.0001%)

病状・体質によっては非常に希ですが、死亡する場合があります。

遅発性副作用

検査後数時間してから、頭痛・じんましん・かゆみ・むくみ、倦怠感が出現する可能性があります。

その他

造影剤を注入する場合、血管外(皮膚の中)に造影剤がもれることがあります。

## 3 緊急時の対応

検査中、体の異常を感じたら、ためらわず、すぐに教えてください。

造影剤投与時は看護師が、また検査中は放射線技師が見守っており、すぐに対処いたします。

万一、重い副作用が出現した場合には、在院する医師が、全力で最善の治療をいたします。

病院を出てから上記の症状が現れた場合、「月日の」という検査で造影剤を使ってから具合が悪くなった」と当院まで連絡してください。